

## Hudson River School の成立と文学者たち

高橋 順子



Hudson River School はアメリカで最初の風景画家のグループである。<sup>(1)</sup> アメリカ美術界に対する彼らの貢献は、彼らが活躍した19世紀のみならず、今日までおよび、アメリカ絵画の、特に風景画の分野においては

かり知れないものがある。ここでは、Hudson River School の成立過程とその意義を、当時の文学者たちとの交流をあわせてたどってゆきたい。

Hudson River School の画家たちが活躍したのは、1825年から1875年にいたる50年間であり、彼らはこの若い国の未だ人の手の入っていない、山や湖や森を描き続けた。当初は主に Hudson River 溪谷沿いの風景や Catskill Mountains の景観などを描いていたが、後には Niagara Falls, Lake George など New York 州の Upper state へも足を延ばし、東は New England, 西は Rockies, 南は Virginia, さらに中米まで、'wilderness' を探し求めて行った。よりよい視界を得るために高い木によじ登ったり、未開の森林の中を流れる河を渡り、何マイルも歩き続け、またある時には探検隊に加わったりして、数か月におよぶ困難な旅をすることもあった。彼らは Hudson 河口の New York で制作に励んだので1870年代の終わりには 'The Hudson River School' と云われるようになった。その他 The First New York School とか The Native School などとも呼ばれたが、最終的に 'The Hudson River School' という名称が定着した。Hudson River School が形成されはじめた当時、ヨーロッパでは、絵画においても文学においても、Romanticism の隆盛期で、Gothic 調の自然美に関心が高まっていた。それは神秘的、幻想的、超自然的であった。嵐、廃墟、落雷に打たれた樹木、闇のなかの恐怖感、静寂などが醸し出す壮大な自然界の中の美を表現するためにさまざまな試みがなされていた。その過程で風景画が人物画や歴史画の背景画としてだけでなく、ひとつの独立した絵画の分野として発展していった。

新世界における風景画の確立に関してはアメリカがまだ植民地であった1730年代に John Smibert (1688-1751) が時おり風景を描いていたし、Winthrop Chandler (1747-1790) もやはり独立以前に Connecticut River Valley 周辺の風景画を制作し、その後の世代の John Trumbull (1756-1843) や Ralph Earl (1751-1801), Washington Allstone (1779-

1843) が続き, Hudson River School の形成に与ることになる。Washington Allstone は1800年代初期アメリカの風景画家としての最先駆者である。彼はハーバード大学で詩学を学んだが, イギリスやヨーロッパに8年間留学した後, ロマン主義的な風景画に神話や宗教的なテーマを描き入れることによって, さらに劇的な表現を創り出した。この手法は当時流行のゴシック様式にうまく適合しており, 英雄伝説などの題材とともに, 想像をかきたて, 情念を燃やさせる雰囲気があり, 風景画が独立した分野となる萌芽となった。

1820年頃になると, Boston の Alvan Fisher (1792-1863) や Philadelphia の Thomas Doughty (1793-1856) のように風景画家を職業とするものも出てきた。Philadelphia 出身で皮革の貿易商であった Doughty は画家に転向し, 風景画を描くことによって生計をたてた最初のアメリカ人画家となった。彼は非常に正確に細部を描くのを特長として, 独特の構図と様式をもち, 新しい手法の風景画を描き続けた。John Trumbull は1802年 New York に設立され, 当時唯一の美術アカデミーであった The American Academy of Fine Arts の初代会長であり, アメリカ独立戦争時代を多く題材にとり, 有名な *The Death of General Warren at the Battle of Bunker Hill* (1786) など雄大な歴史画を描いたが, 景風画も手懸け, とくに Thomas Cole (1801-1848) を発掘することで Hudson River School の形成に大きな貢献をした。

いうまでもなく, Hudson River School が活躍しはじめた1830年代は, アメリカ人がいっそう国民意識を高め Nationalism が力強く育った時代である。第二次英米戦争 (1812-1814) での勝利はイギリスに対する軍事的, 政治的勝利であり, 文化面での独立への意欲も高まっていった。アメリカ人は自分たちの国の偉大さを発見し, 確認したいという願望を強くもっていたし, またアメリカの自然の美しさに誇りを見出していた。たとえば作家の Washington Irving (1783-1859) は画家を志したこともあると

いわれるが、*The Sketch Book* (1819) の序文の中でアメリカの自然を讃え、“—for on no country have the charms of nature been more prodigally ravished. —no, never need an American look beyond his own country for the sublime and beautiful of natural scenery.”<sup>(2)</sup>とまで言い切っている。Frederich Edwin Church (1826–1900) の *Niagara* (1857) や Albert Bierstadt (1830–1902) の *Yellowstone Falls* (1881) などに描き出された途方もなく壮大で息をのむような景観に、当時の人々は感動し、陶醉した。アメリカ人たちは、これらの風景画は自分たちの共通の財産であるという意識を抱くようになり、風景画に対する需要が強くなった。建国以来アメリカの画壇では肖像画や歴史画が支配的であったが、壮大なスケールの自然を描いた風景画へと移っていったのである。この時期に Thomas Cole をはじめとする風景画家たちが現われたのはまさに成長期にあったこの国の要求に応えるものであり、こうした状況が Hudson River School の出現を促進することになったのである。1825年 Trumbull は New York の額縁屋で偶然 Catskill Mountains を描いたすばらしい風景画を見つけた。それは Cole の作品であった。Trumbull はその一枚を購入し、すぐ画家の Asher B. Durand (1796–1886) と美術評論家の William Dunlap (1766–1839) を伴って戻ってきた。このふたりは残りの Cole 作品を全部購入した。この出来事によって Thomas Cole の名は New York の画壇に広く知れわたることになった。Cole はアメリカ美術史上はじめて風景画を確立させた人物で、当時文化的後進国であったアメリカにおいて、その国土の雄大さ、壮大さ、そしてそれに伴う神聖なほどの神秘性を描きだした数々の力強い作品によって人々の期待に応えたのである。Cole は旧世界ヨーロッパと深い絆をもった画家であった。彼はイギリスの Lancashire で生まれ、1818年17歳の時両親と共にアメリカへ渡ってきた。イギリスで彼はすでに木彫り職人として働いた経験をもっていた。彼は Philadelphia で肖像画を描いたり、

短い期間ではあったが The Pennsylvania Academy で美術を学んだ後、当時すでに経済的にもアメリカの中心地となっていた New York へ出て来た。そして、Trumbull に才能を見出され、瞬く間に有名となり、Cole は詩人 William Cullen Bryant (1794-1878) などと知り合い、風景画家として第一人者となっていた。彼は自然を、活気ある生命力溢れるもの、故に意味深いものであり、何かを象徴している聖なる領域としてとらえていた。この姿勢は、“every natural fact is a symbol of some spiritual fact. The whole of nature is a metaphor of the human mind.”<sup>(4)</sup> という Emerson の自然観に通じるものがある。Cole はアメリカ・ロマン主義の最初の画家となった。彼はまた、詩人でもあり、優れた随筆家であり、筆まめに手紙を書き、旅行好きで、そして何よりも後輩を育てる師として優秀な人物であった。

19世紀初期、ヨーロッパ留学から戻った画家たちは、アメリカの美術界がいまだ貧弱な状態であることに直面しなければならなかった。アメリカには、画家たちを援助すべき王室も、ルーブルも、サロンも存在しなかった。また、美術学校も、定期的展覧会もなく、後援者もごく少なかった。当時アメリカ人にとって絵画とは、単に短い時間に描き上げ、安価で買い取られる肖像画のことであった。1802年、New York である実業家のグループが The Academy of the Fine Arts を創設した。これは“新世界”において最初の恒久的な美術学校となった。1816年からこの Academy は毎年展覧会を開催するようになった。1805年には The Pennsylvania Academy of the Fine Arts が創設された。これは、さらに優秀な画家を育て将来を嘱望される若い画家たちが外国へ流出するのを防ぎ、アメリカにおける絵画の分野に独自性を育てるためであった。1807年にはボストンに Athenaeum ができた。当初は図書館として機能していたが、1826年からは毎年展覧会を催し、美術品の蒐集もはじめた。

これらの美術学校の設立が相次いだのち、1826年には New York に

The National Academy of Design が創設され、これは瞬く間に美術界で傑出した地位を築くにいたった。その地位はほぼ一世紀の間、揺るぐことはなかった。創設者には、初代学長となった Samuel F. B. Morse (画家でもあり、モールス信号の発明者)、Rembrant Peale (画家)、John Vanderlyn (画家)、William Dunlap (アメリカにおける最初の美術評論家)、Thomas Cole および Asher B. Durand などが名を連ねている。アメリカの美術界が専門学校設立などで格段の発展を遂げている時期に、文壇でも詩や創作活動が隆盛を究めてきていた。当時の代表的な Irving, James Fenimore Cooper, Bryant の作品に Hudson River School の絵画と共通したものがあるのはきわめて興味深い。Washington Irving (1783-1859) の *The Sketch Book* は1819年に発表され、アメリカのみならずイギリスにおいてもベストセラーとなり、彼は国際的に名声を得た最初のアメリカの作家となった。*The Sketch Book* の中にある ‘Rip Van Winkle’ や ‘The Legend of Sleepy Hollow’ などの物語はドイツの民話を下敷きにしたといわれるが、その舞台は Catskill Mountains や Hudson Valley であり、アメリカの民話伝承的存在になった。Irving は ‘The Legend of Sleepy Hollow’ の中で Hudson River Valley を次のように書いている。

“Not far from this village, perhaps about two miles, there is a little valley, or rather lap of land, among high hills, which is one of the quietest places in the whole world. A small brook glides through it, with just murmur enough to lull one to repose; and the occasional whistle of a quail, or tapping of a woodpecker, is almost the only sound that ever breaks in upon the uniform tranquillity.”<sup>(5)</sup>

このようにロマン的な風景描写は Hudson River School の絵画を文章

に写しかえたのではないかと思うほど両者の共通性が窺える。

Cole の近くに住んだ James Fenimore Cooper (1789-1851) は *The Pioneers* (1823), *The Last of the Mohicans* (1826) など, Upper New York や Hudson 渓谷を舞台に, アメリカの未開の地や高潔な信条をもったインディアンや奥地に生きる男たちを描いたが, Cole の絵 *The Last of the Mohicans* (1827) は, 辺境の地を神に与えられた地と信じて守りとおそうとするインディアンの姿を大自然の中的一幕として表現している。また Cooper は自然の破壊を嘆いたが, Cole もまた Hudson River Valley の森林が切り倒されるのを嘆いている。William Cullen Bryant は, 絵画にも深い関心があり, 特に自国の美術作品により深い関心をもち, Cole の親友として Hudson River School を考える場合, 特に重要な存在である。‘Forest Hymn’ など彼の詩にみられる自然に対する敬虔な敬愛の念は Cole の絵にもみられる。<sup>(6)</sup>

自然を好んでうたった詩人にとって, Hudson River School の画家たちと親交をもつことは自然発生的現象であった。画家たちも彼を歓迎し, 彼らが中心となって創設した National Academy of Design に Bryant を教授として迎えた。ここで Bryant は神話に関する連続講義を行なっている。<sup>(7)</sup> Bryant は彼らの作品の中に自分の詩の中に表現されたテーマに共通するものを感じとっていた。Bryant は Cole と特に親交を結ぶようになったが, たがいに芸術家として, その思考が著しく共通していることを認識していたのである。

1829年 Cole はヨーロッパへ旅立った。ヨーロッパは当時アメリカ人にとって芸術の中心地であり, その完成された文化の中で Cole が虜になってしまい, せっかくアメリカで培った新鮮な彼のスタイルが失われてしまうのではないかと心配した人々がいたが, William Cullen Bryant もその一人であった。彼はヨーロッパへ発つ Cole に詩 ‘To Cole, The Pain-

ter, Departing for Europe'<sup>(8)</sup> を書いている。

Thine eyes shall see the light of distant skies ;  
 Yet, COLE! thy heart shall bear to Europe's strand  
 A living image of our own bright land,  
 Such as upon thy glorious canvas lies ;  
 Lone lakes—savannas where the bison roves—  
 Rocks rich with summer garlands—solemn streams—  
 Skies, where the desert eagle wheels and screams—  
 Spring bloom and autumn blaze of boundless groves.  
 Fair scenes shall greet thee where thou goest—fair,  
 But different—everywhere the trace of men,  
 Paths, homes, graves, ruins, from the lowest glen  
 To where life shrinks from the fierce Alpine air.  
 Gaze on them, till the tears shall dim thy sight,  
 But keep that earlier, wilder image bright.

ここには Cole への警告があると同時に, Bryant 自身のアメリカに対する熱い思いがみられる。旧世界ヨーロッパにもはや存在しない lakes, savannas, bison, rocks, desert eagle など新世界アメリカの自然のすばらしさを強調している。また, ヨーロッパの光景に感動することであっても, 自分がすでに会得した新世界の野性的なイメージを持ち続けるように説いている。

イギリス, フランスを訪れた Cole はかつて名声を誇った画家たちの作品が, 新しく現われた近代の画家たちにとって代られているのを見て失望した。新しい画家たちの作品のテーマが戦闘場面, 殺人, 死, Venuses, Psyches, またはひたすら官能的なものなどが主流となっていることに落胆したのである。しかしヨーロッパ旅行で見た明るいイタリアの風景, イギリスの古城, ライン河周辺の豊かな光景は, Cole の表現様式をさらに豊かなものにした。

新世界アメリカの, 広大な荒野の荒々しく雄大で神秘的な風景の体験と,



深い歴史の中に埋もれた旧世界ヨーロッパの風景の体験とを通して、Cole ははじめてアメリカ・ロマン主義を代表する画家となりえたのであった。‘wilderness’ は神と対話するのにふさわしい場所であると Cole は考えたのである。Cole は寓話的なメッセージをこめて、アメリカの自然の清澄さを理想化して描いたのである。しかし、そうした境地に到達するまでにはヨーロッパの克服という課題があった。

Cole はローマの大遺跡の中で、自然の中に生きる人間の運命をロマン主義的感覚で描いたが、巨大な5枚のキャンバスからなる *The Course of Empire* (1836) がある。この作品は完成後 The National Academy of Design に展示され、Bryant と James Fenimore Cooper が称賛したが、一般の鑑賞者や美術評論家たちはほとんど支持しなかった。帰国後 Cole は1842年に *The Voyage of Life* 四部作を完成した。人の一生を Childhood, Youth, Manhood, Old Age の四つに分けて宗教的信仰のイメージを盛り込んで描いたものであるが、これも一般の鑑賞者からは支持されなかった。人々は本物のアメリカの風景画を渴望していたからであった。この頃のアメリカ美術界は、今までのヨーロッパ偏重の風潮の中で、風景のみを描いた絵画が定着しはじめていたのである。当時のヨーロッパの美術評論家の中には、アメリカ美術界についてアメリカの風景画にはオリジナリティがあると評するものも出てきていた。<sup>9)</sup> このオリジナリティとは、今までになかった新鮮さ、大胆な構図、才気にあふれた表現、雄大な画面などであった。

しかし、Cole は1836年に *View from Mount Holyoke, Northampton, Massachusetts, after a Thunderstorm (The Oxbow)*, 1838年に、*Schoon Mountain, Adirondacks*, 1847年に最後の大作 *Genesee Scenery* を発表し、そこに描かれている大自然の景観は常に多くの人々に感銘を与えた。この時代にアメリカ人が求めていたものは、古いヨーロッパの古典芸術ではなく、新しいアメリカの、自分たちの同胞の制作した、荒々しい

までに力強い、雄大な風景画であった。そして、これらの絵は Cole をまさに国民的画家として位置づけるものであった。

Cole は1848年、ハドソン河流域にある Catskill で悪化した肺炎がもとで47年の生涯をとじた。親交の厚かった Bryant はその死を深く悼み、Academy of Design で多くの聴衆を前に次のように述べている。<sup>(10)</sup>

We might imagine a sound of lament for him whom we have lost in the swell of the streams and in the sighs of the wind among the grass, and an aspect of sorrow in earth's solitary places! We might dream that the conscious valleys miss his accustomed visits, and that the autumnal glories of the woods are paler because of his departure ..... The region of the Catskills, where he wandered and studied and sketched, and wrought his sketches into such glorious creations, is saddened by a desolate feeling when we behold it and think of it.

彼の作品は数多くの複製画や版画となって広く知られるようになっていたので、多くの画家が彼の手法を真以て Catskill Mountains, White Mountains, Maine 州の海岸, Niagara Falls などを描くようになった。彼らは Cole のやりかたを踏襲して、方々へ旅行し、その場でオイル・スケッチをし、New York City の自分たちの studio に戻ってきて仕上げをした。Cole 亡き後は、永年の親友であった Asher Durand が Hudson River School のリーダーとなった。巻頭に載せた有名な *Kindred Spirits* は Cole の死の翌年、Cole を追悼して Durand が描いたもので、Cole と詩人 Bryant との友情を讃えている。この作品の背景は Catskill Mountains の溪谷で、現場で油彩で描きあげられたものである。この一幅の絵画は Hudson River School の真髄を表すものである。彼らが求め続けた自然の壮大さ、神秘性、その中に端座する人間の姿、分野を越えた文化人同志の親交、これはアメリカ文化の形成を象徴するものである。

この絵の中で、永遠の友情に結ばれた画家と詩人は、神が創造した完璧な自然の風景、すなわち ‘American Wilderness’ を満喫しているのである。これはまさに当時のアメリカ国民文化の創造を象徴するものである。

#### 註

- (1) Thomas Daughy, Asher B. Durand, Thomas Cole, John F. Kensett (1818-1872), Martin J. Heade (1819-1904), Jasper Cropsey (1823-1900), Stanford R. Gifford (1823-1880), George Inness (1825-1894), Frederic E. Church, Albert Bierstadt など。
- (2) McDermott, John F. ed., *The World of Washington Irving*, Dell Publishing Co., Inc., 1965, p. 88.
- (3) 画学生として暖房もない屋根裏部屋に住んでいた24歳の Cole は数多くのスケッチをもとに風景画を描くようになると、たちまちたくさん注文が来るようになった。その後 Frederic Church や Albert Bierstadt の頃になると、風景画の値段もはるかに上がり、一枚が 25,000 ドルにもなった。これは今日でも絵画の値段としてはかなりの額といえる。
- (4) Stebbins, Theodore E., Jr., *A New World: Masterpieces of American Painting 1760-1910*, 1983, p. 65.
- (5) McDermott, J.F., ed., *The World of Washington Irving*, 1965, p. 154.
- (6) Davidson, Marshall B., *The Writer's America*, 1973, p. 95.  
Bryant は早くから Cole の絵を認め、“…… carrying eye over scenes of wild grandeur peculiar to our country, over our aerial mountain-tops with their mighty growth of forest never touched by the axe, along the banks of streams never deformed by cultures, and into the depth of skies bright with the hues of our own climate; skies such as few but Cole could ever paint, and through the transparent abysses of which it seemed that you might send an arrow out of sight.” とまで述べている。
- (7) Ringe, Donald A., Kindred Spirits: Bryant and Cole, *American Quarterly*, Fall 1954, p. 233.
- (8) McMichael, George, *Concise Anthology of American Literature*, 2nd edition, 1985, pp. 360-361.
- (9) Minks, Louis, *The Hudson River School*, 1989, p. 12.
- (10) Godwin, Parke, ed., *Life and Writings of William Cullent Bryant*, 6 vols., 1883-4: 1964-67, Vol. 2, p. 34.

#### 参考文献

Baigell, Matthew, *Dictionary of American Art*, Harper & Row, New York, 1982.

- Brooks, Van Wyck, *The Pictorial History of American Literature*, E. P. Dutton & Company, Inc., New York, 1956.
- Brooks, Van Wyck, *World of Washington Irving* E. P. Dutton & Co., Inc., New York, 1944.
- Davidson, Abraham A., *The Eccentrics and Other American Visionary Painters*, E. P. Dutton & Co., Inc., New York' 1978.
- Davidson, Marshall B., *The Writer's America*, American Heritage Publishing Company, Inc., New York, 1973.
- Godwin, Parke, ed., *Life and Writings of William Cullent Bryant*, 6 Vols., Appleton, New York, 1883-4: Russell & Russell, New York, 1964-67.
- Kazin, Alfred, *A Writer's America, Landscape in Literature*, American Heritage Publishing Co., Inc., New York, 1988.
- McDermott, John F., ed., *The World of Washington Irving*, Dell Publishing Co., Inc., New York, 1965.
- McMichael, George, *Concise Anthology of American Literature*, Second Edition, MacMillan Publishing Co., New York, 1985.
- Minks, Louis, *The Hudson River School*, Brompton Books Corp., New York, 1989.
- Novak, Barbara, *American Painting of the Nineteenth Century*, Praeger Publishers, New York, 1969.
- Ringe, Donald A., Kindred Spirits: Bryant and Cole, *American Quarterly*, Fall 1954.
- Ringe, Donald A., *The Pictorial Mode, Space and Time in the Art of Bryant, Irving, and Cooper*, The University Press of Kentucky, 1971.
- Stebbins, Theodore E., Jr., *A New World: Masterpieces of American Painting 1760-1910*. The Museum of Fine Arts, Boston, 1983.
- American Paradise, The World of Hudson River School*, The Metropolitan Museum of Art, 1987.
- 写真：“Kindred Spirits” by Asher B. Durand *American Paradise, The World of the Hudson River School*, The Metropolitan Museum of Art, 1987.  
より複写した。